

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。
市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

市民の皆さん、そして報道機関の皆さん、今日の記者会見の案件は一つ、令和3年度当初予算案、そして令和2年度2月補正予算の概要についてであります。さっそく、この案件に入りたいと思います。

令和3年度当初予算案、及び令和2年度2月補正予算案がまとまりましたので、ご説明いたします。記者の皆さんには、お手元のA3判資料①「令和3年度当初予算案の概要」をご覧ください。当初予算の規模は、一般会計が3,297億円、対前年度44億円、1.4%の増。企業会計を合わせた全会計が約6,551億円、対前年度約128億円、2%の増になり、いずれも過去最大の規模となりました。

この新年度の予算編成のポイントは三つございます。一つ目はポストコロナの時代を見据えた新たな日常に対応した社会の実現に向けた取組に予算の重点配分をしたこと、二つ目は本市の最重要課題である3次総、5大構想、これを着実に推進する取組を、まさに反映させたこと、そして、三つ目は激甚化、頻発化する災害への対応として国土強靱化を強力に推進する取組を予算に反映したこと、この三点であります。

その上で、国が打ち出しました、いわゆる15カ月予算、この考え方と連動して、本市も2月補正予算と当初予算を一体で編成し、市民の“いのち”を守る感染症拡大防止対策と日常を取り戻す経済対策を、強力かつ継続的に切れ目なく実施してまいります。

それでは、まず、コロナ対策として「新たな日常への対応」というタイトルをつけてまとめた主な取組をご説明します。資料上段、青枠の部分ではありますが「新たな日常への対応」をご覧ください。

三つ柱があります。一つ目の柱は市民の安全・安心の確保です。新型コロナウイルスワクチンの接種にかかる経費を計上いたしました。医療従事者に続き高齢者の方から順次接種が始められるよう、実施体制を確保してまいります。また、本市の医療を支えていただいている公的病院等につきましては、医療提供体制の確保を支援してまいります。

二つ目の柱は地域経済の活性化と賑わいの創出、分散化社会への対応です。本市の玄関口であり、JR静岡駅北口の一等地にある、いわゆるしずチカ、この場所を、新たな価値や賑わいを見いだす情報発信ステーションにしていく、そのために、さらなる活用方法や機能など、付加価値を付ける検討に向けた社会実験を行ってまいります。また、会食の自粛をお願いしておりますが、その影響を受けている飲食業者並びに関連業者に対して新たに支援金10万円を支給し、市内飲食業界を下支えしてまいります。

三つ目の柱はICTなどを活用した社会の効率化です。小中学校へのパソコンの導入に伴い快適なネット環境を整備するとともに、子どもたちの可能性を開花させる静岡県ICT教育を推進してまいります。また、分かりやすく案内をする行政手続きガイド、これを拡充して行政サービスの利便性の向上を図ってまいります。以上が新たな日常への対応の三つの柱であります。

次に、コロナ禍の中にあっても本市の発展に向けて、引き続き5大構想を着実に推進してまいります。資料下段、赤枠の「5大構想」の欄をご覧ください。主な取組を、ご説明します。

まず、歴史文化の拠点づくりでは、令和5年春の開館を目指し、駿府城公園の歴史文化施設の整備を着実に進めてまいります。海洋文化の拠点づくりでは、令和5年度の供用開始を目指して新興津地区の清水港海づり公園の整備を着実に進めてまいります。教育文化の拠点づくりについては、「静岡シチズンカレッジこ・こ・に」において、まちづくりを担う人材の養成を進めてまいります。健康長寿のまちの推進では、地域包括ケアシステムのさらなる充実を図ってまいります。最後に、五つ目はまちは劇場の推進ですが、まちは劇場のブランディングを進め、国内外へのプロモーションを強化してまいります。

最後に、資料の一番下、紫色の枠「国土強靱化」の欄をご覧ください。防災・減災につきましては、同報無線をデジタル化し、聞こえる範囲を広げ、さらに聞きやすくなるよう更新を進めてまいります。また、社会基盤の整備として、浸水対策や道路ネットワークの整備についても、引き続き強力に進めてまいります。

次に、2月補正予算案について若干説明をいたします。お手元の④「令和2年度2月補正予算案のポイント」の1ページをご覧ください。補正予算の規模は、一般会計が約38億1,000万円の増額、特別会計が約117億9,000万円の減額、企業会計が約4億6,000万円の減額、総額では約84億4,000万円の減額となりました。一般会計では、先ほど説明をした新たな日常への対応と社会基盤整備で約65億円を増額しております。市民の生命を守る取組を最優先にして、さらに日常生活を取り戻す取組とともに進めてまいります。この結果、令和2年度予算額の累計は、一般会計が約4,183億円で、特別会計と企業会計を合わせた総額は約7,240億円となりました。

以上、令和3年度当初予算、令和2年度補正予算、静岡市におけるいわゆる15カ月予算について説明をさせていただきました。なお、16日の市議会本会議の場において、この令和3年度の施政方針を述べさせていただきます。この中で、このたびの予算案にかけた私の思いと決意を改めてお伝えしてまいりたいと思います。よろしくお願いたします。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただ今の発表につきまして、皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。

社名とお名前をおっしゃってからお願いいたします。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

よろしく申し上げます。今回の当初予算について、ひとことで言うと、どういった予算になるのでしょうか。

◆市長

この質問は想定しておりました。「2つのLife 予算」と名付けたいと思います。令和2年度、本年度を通じて追加補正も含めると15までの補正予算を計上してきました。これのキーワードは、ここにも書いてあるように「2つのLife を守ろう、取り戻そう」でありました。そして、感染症拡大防止対策や社会経済対策を並行して進めてきたわけでありました。令和3年度も引き続き「2つのLife」をキーワードに市民と行政が支え合う、昨年の私の漢字一字、「支」という字を選びましたけれども、支え合う、そんな予算を作っていきたい。そこで「2つのLife 予算」と名付けました。

◆読売新聞

ありがとうございました。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。SBSさん、お願いします。

◆SBSテレビ

よろしく申し上げます。飲食店などへの一律の10万円の給付なんですが、10万円にした理由など、また、これをどう活用していただきたいか、改めて教えていただけますか。

◆市長

そうですね、とにかく、また、今回厳しい財政の中でありますけれども、飲食店の皆さん、あるいは議会の皆さんの要望を受けて、この支援金を計上したわけでありました。気持ちであります。規模的に大きな飲食店では10万円ということが、どれだけの潤いになるのか分かりませんが、この厳しいときに、とにかく新規感染者数を静岡市で抑えていかなきゃいけない、そのために、飲食店さんが大変ご苦労されているのなら、ここはとにかく現金給付をしていこうと決意をした次第であります。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いします。

◆静岡新聞

今回の当初予算のほうにですね、サッカースタジアム建設に向けた調査費のほうが、300万円計上されていまして、これ、2年前の市長選で田辺市長が「建設に向けた構想づくりに着手します」という公約に掲げていた案件だとは思いますが、サッカースタジアム新設に関しては、このスタジアムに関しての、ここで予算計上した思いであるとか、今後の展望みたいなものがありましたら、お聞かせください。

◆市長

おっしゃるとおりでありますね。今回、調査費に300万円を計上いたしました。これを一つの“てこ”にして、今後、どのようなサッカースタジアムを、市として実現できるのかという構想づくりに着手してまいりたいと思います。

◆静岡新聞

展望みたいなものって、現時点ではまだ見えてない。

◆市長

そうですね。やはりどの土地にするのかまだフラットの状態ですし、市有地ばかりではございません。今回は、サッカーのまちにふさわしいスタジアムの整備に向けた検討を進めていくための基礎的な資料を作って、そして、お示ししていくということを目的としています。その調査の内容は、国の動向、Jリーグの考え方、IAIスタジアムの現状、そういう点を整理しつつ、近年の他都市の動向・事例なども調査してまいりたいと思っています。

◆静岡新聞

ありがとうございます。もう一点お伺いしたいんですが、今回の当初予算のほうで清水庁舎であるとか、海洋文化施設、歴史文化施設のほうは凍結が解除されて、予算が四十何億入っているんですが、清水庁舎に関しては、2月補正で調査費のようなものが若干入っていて、海洋文化施設のほうもPFIの再開に向けた調査費のようなものが計上されているのみになっているんですが、この二事業が、当初予算のほうで大きな予算化はされなかった、このへんの理由であるとか、今後の見通しみたいなものを教えてください。

◆市長

これもご指摘のとおりですね。まず、新清水庁舎の整備については、ポストコロナの時代であります、大きな時代の転換点だと、私は理解しております。デジタル化の急速な進展や感染症対策の必要性など、これまでにない新たな知見を加えなければなりません。

ん。庁舎に求められる機能や規模が変わることも想定されます。例えば、今まで窓口へ足を運ぶ必要があった手続きが全てオンラインの申請で済むという時代も来ましょう、窓口の数が削減するという可能性がある一方、感染症対策の面では待合室のスペースをこれまでより広く確保をするという必要性も生じるかもしれません。そのために、令和3年度を通じて、国などが示すデジタル化やオフィス、働き方に関する指針や計画を見据えながら、行政サービスのデジタル化や感染症対策を備えた執務空間のあり方等の調査研究に取り組んでいき、ポストコロナ時代にふさわしい新しい未来の庁舎の考え方を提示していきたいと、そういうふう考えております。

海洋文化施設のほうも言及したほうがよろしいでしょうか。

◆静岡新聞

はい。

◆市長

これも5大構想の一つであります。国際海洋文化都市清水の実現に向けて、官民が連携して進めてきた「清水みなとまちづくりグランドデザイン」の牽引役を担っていくリーディングプロジェクトであります。これもポストコロナの時代を意識しながら、民間の業者の投資・参画意欲が高められるよう、この施設の事業予測、事業収支、不測の事態へのリスクの分担、さまざまな内容を見直しの検討課題にして取り組んでいるところであります。併せて、関心のある事業者様が施設の集客力を押し上げる展示提案を行ってもらえるように、東海大学などと強く連携をして、ここにしかないオンリーミュージアム、駿河湾ならではの魅力的な水族生物の展示コンテンツの素材の掘り起こしを進めて、事業者への提示にも取り組んでいるところであります。こうした見直しを含め、まちの元気や賑わいを取り戻し、周辺への経済効果を波及させていくため、早期に事業の再開を目指したいと思っています。以上です。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。先に朝日新聞さん、お願いします。

◆朝日新聞

よろしくお願いします。当初予算案の①を見るとですね、5大構想に計上される額とコロナ対策に計上される額が、ほぼ同額だというふうになっていると思いますが、先ほどもおっしゃったんですが、こういう状況下ということは、たぶん税収が落ち込ん

でいる状況かと思うんですけれども、こういう状況下で5大構想を推進する理由というのを、もう一度、ご説明願えますでしょうか。

◆市長

これは16日の施政方針の席上で私の思いと決意の一端をお話ししようと思っておるので、今、その文章を練り上げているところでもありますので、そのときまでお待ちいただきたいと思います。

◆朝日新聞

議会でのご発言も大事なんだろうけれども、今、記者会見の場ですので、「これこれこういう理由でやはり進めるんだ」と、市民へのメッセージになると思うので、一端でもお願いいたします。

◆市長

そうですね。分かりました。ご承知のとおり確かに財政は厳しいです。ですので、その中で、どうコロナ感染を収束させていくかということを最重要課題にしながら、予算編成してきたわけでもありますけれど、一方、平成27年度、2015年度から始まった8年間の第3次総合計画は、確固たる都市ビジョン「世界に輝く静岡の実現」という都市目標を持って進めてまいりました。その最重要課題が5大構想であります。この都市ビジョンは決して揺るぐことのない都市目標でありますので、その予算も今回、きちっと確保したということでもあります。

◆朝日新聞

大型のハコモノを造ることについては、いろんな意見があると思いますけれども、不要不急ではないのか、というふうな指摘もあると思うんですが、それについてはどういうふうなご意見を持ってらっしゃいますか。

◆市長

そうですね。不要不急という言葉がどういう意味合いで使われるかであります。喫緊の課題としてはそうでもありますけれども、この3次総の中での5大構想、中長期的にはこれは静岡市の発展のために必要な投資だというふうに私は考えております。

◆司会

よろしいですか。そのほかいかがでしょうか。時事通信さん、お願いします。

◆時事通信

先ほどの質問にも関連すると思うんですけども、財政課の見通しですと、令和4年度以降は80億円前後の財源不足が見込まれるということなんですけれども、この状況について、市長としてはどういうふうにお考えかということと、あと、過去最大の予算ということなんですけれども、その要因についてどういうふうにお考えか、お聞かせください。

◆市長

これは本当に悩みに悩んだ論点だろうというふうに思っています。財政局ともずいぶん議論をしました。予算要求時点の総額約3,350億円あったわけなんですけれども、これが予算の重点化や事業費の精査を行い約52.3億円減額し、抑え込んで3,297億円としたわけでありまして。ここもかなり厳しい査定、調整を行いました。あるいは特定財源については、利用可能な国庫支出金や県の支出金、及び市債を最大限に活用させていただきました。一般財源については、その根幹を成す市税は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う個人所得や法人収益の減少による個人、法人市民税が減少するとともに、評価替えや減免による固定資産税の減少など、市税全体では前年度予算と比較して、80.2億円減額しましたが、普通交付税、及び臨時財政対策債は62.3億円の増額にとどまっておりますので、一般財源の総額は減少しているのはその通りであります。その結果、市民の安心・安全と本市の発展に必要な歳出予算と、それに係る財源を精査し、確保した上で、最終的に財源不足となった55億円については、これも、すでに記者レクをしたことかもしれませんが、財政調整基金45億円、健康福祉基金4億円、都市整備基金1億円、さらに市債管理基金5億円、これを積み上げて約55億円の予算のほうを確保したと、埋め合わせたというような、ぎりぎりの予算編成であります。

◆時事通信

その状況の中で、どういう今後、対応をしていきたいというふうなお考えがあれば、お聞かせいただきたいんですが…

◆市長

とにかく今は市民の“いのち”と“暮らし”を下支えしていくと、そのために必要な公共支出はせざるを得ないというふうに思っています。これは国も県も同じだろうと思います。

◆時事通信

今後の財源を生み出すための対応策というのも、何かお考えはあるんでしょうか。

◆市長

もちろん、コロナ禍がいつかは収束をする、その先には民間の投資もまた増えてくるでしょうし、そして、税収も伸びていくかもしれません。その流れの中で昨年、私が選挙の公約で訴えたように、民間投資を喚起するような、そんな公共投資をすることによって経済の好循環を静岡市の地域経済でもつくっていく中で、税収の確保も図っていききたいというふうに思っています。

◆時事通信

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、発表案件についてのご質問はここまでとさせていただきます。続きまして、幹事社質問のほうをお願いいたします。

◆中日新聞

まず一点目で、1月29日に静岡大と浜松医科大が、来年の春に開学するという再編計画のスケジュールを延期すると発表しました。その際の会見で、静岡大の石井潔学長が静岡市と静大で開く協議会に触れまして、3月末でいったん実質的な審議を閉めていただきたいと発言されていましたが、この件、静岡市長としてはどうお考えでしょうか。

◆市長

とても関心を持ってこれに注視しております。記者ご承知のとおり、この協議会は、文部科学省の通知による、地元の理解を得なさいと、その目的のために石井静岡大学学長からの申し入れに基づいて、共同して設置したものであります。

今後のスケジュールについては、事務方に確認をしたところ、今日の時点では、今後、ワーキンググループを数回開催していくと、その上で、上部組織である協議会を遅滞なく開催していくと、そして、議論をまとめていく方向だと、このことを協議会の篠原座長、並びに静岡大学の事務方とも議論を進めているという報告を受けております。

私は、静岡大学は、さまざまな若者の学びのニーズに応えていくユニバーシティ、総合大学であってほしいと思うし、海外からも静岡大学で学びたいという憧れを持って、たくさんの留学生で賑わう、世界に輝く静岡大学になってほしいなというふうに考えております。

今後も、地域の高等教育をリードしてきたし、これからも、して行って欲しい、静岡大学の、また、日詰新学長のビジョンをしっかりと支えていきたいというふうに思っています。

◆中日新聞

というと、数回やって、その後、上部組織をやると、残り2カ月弱で3月末で閉めるのは難しいかな、と見るのが妥当だと思うんですけども…

◆市長

そうですね。事務局のイメージとしてはね、今月、来月にワーキンググループでの取りまとめを終了して、その後、協議会を開催していくという方向でしょうね。

◆中日新聞

3月末までに、であれば通常の会合、戻れるかもしれないですけど、そこで取りまとめというのではなく、あくまで期限を決めるのではなく、静岡市としてはまとまった期限を設けず総合大学としてのあり方を考えていきたいということなんでしょうか。

◆市長

そうですね。もし補足があれば企画局長からも答えていただきますけれども、私の思いはね、期限は確かにある。しかしながら、先ほど申し上げましたとおり、日詰新学長がこれから中長期にわたって静岡大学をさらに発展させていくにはどうしたらよいのかというビジョン、そして、またそれを支える法的な枠組み、国の政策というものも変わってきています。連携推進法人の枠組みであるとか、さまざまな、これ、国立だけではなくてね、公立、私立も踏まえた、そんな連携をしていくべきではないかという国の大きな方針もありますので、そんなことを見定めながら、喫緊の課題は喫緊の課題として、記者おっしゃるとおりですけども、私自身はそういうふうに、やっぱり大きなビジョンの下で日詰新学長がやりやすいような、そんな下支えをサポートの立場として、していきたいなと思っています。何か、企画局長、いい、うん。

◆中日新聞

二点目、伺います。コロナ禍で静岡市への移住相談が、東京有楽町のほうだったり、増えていると聞きます。企業のサテライトオフィス誘致も、今年度に入り数件あったと聞くのですが、東京の一極集中是正のため、政府が本社機能の地方移転を促していますが、静岡市として本社機能誘致のための施策は考えているものはありますか。

◆市長

これはね、大きなチャンスの時期だというふうに捉えています。これまではコロナ禍の中で誘致活動が制限されてきたのはやむを得ないかと思います。ただ、首都圏を中心にテレワークが急速に発展しておりますね、企業のオフィスのあり方が大幅に見直される

ということで、テレワーク、デジタル化の進展による、コロナ禍に押し出されたような形になりますけれども、そういうふうな企業の作業も進むというので、その受け皿として静岡市がどれだけ整備ができるのかと、そして、誘致ができるのかと、そんな試金石になろうかと思えます。

そこで、予算案の中で二つほど新しい事業を盛り込んでおります。まず第1弾としては、これ、昨年11月から始まっておりますけれども、静岡市に初進出した企業に対して、市内のシェアオフィスやコワーキングスペースの利用にかかる費用、ならびに市内に滞在するときの宿泊費等を助成する、「Move To しずおか 新しいビジネス様式支援事業」と名付けた制度をスタートさせました。昨年、オンライン展示会を出展したわけですが、この制度が期せずしてSNSで、ずいぶん拡散していただいて、主にIT系の企業から、すごく注目をされました。多くの問い合わせもいただいております。今日の時点で、全ての利用企業、これ、4社ありますけれども、市内で事業を継続していくということでありますので、これも引き続き新年度事業の継続をしていきたいと思っております。

さらに第2弾としては、首都圏の企業、市内の企業、そして、大学等高等教育機関、研究機関、そこに学ぶ学生の皆さんとの交流の場、これをB-nest 産学交流センターの中に設けて、首都圏企業が本市の人的資源とか地域資源、これに魅力を感じてもらえるような、そんな仕掛けづくりを行う「コ・クリエーションスペース創出事業」という制度も新しくスタートさせています。ここで、私が期待するのは、首都圏の企業と静岡の学生さん、さまざまな人的交流の中で、そのイベントは仕掛けていきますけれども、それをきっかけに出会いがあり、つながって、多種多様な、いわば化学反応のようなものが起こることによって、静岡発のオープンイノベーションが生み出されたらいいな、将来的には、このスペースからベンチャー企業が誕生すること、それを目標にして、関係の皆さんと連携を図りながら、この事業もスタートをさせていく図を考えています。

◆中日新聞

首都圏の企業と静岡の学生さんの交流というと、すいません、ちょっと短絡的な発想なんですけれども、首都圏の企業に就職して、静岡の学生が吸われてしまうんじゃないかとは思われますか。

◆市長

そこは勝負でしょうね、そうですね、しかし、大きな流れとして、ここに興味を持ってくれる首都圏の企業は、サテライトオフィスとかリモートワークということ視野に入れて、良い人材が静岡にいればね、それをひとつ採用していこうというふうな流れになるわけですので、追い風だというふうな受け止めて、積極的なこういう事業を予算に盛り込んだところであります。今日、経済局はこのことで来ているかな、少し

補足があればと思いますけれど、大丈夫ですか、なければいいですけども。

◆産業振興課長

ないです。

◆市長

大丈夫？

◆産業振興課長

はい。

◆市長

はい。

◆司会

それでは、ただいまの幹事社質問に関するご質問があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。それでは、その他のご質問をお受けいたします。SBSさん、お願いします。

◆SBS

コロナのワクチンの接種体制について伺いたいんですが、集団接種の会場の確保について、静岡市の現状を教えてください。

◆市長

これはもう全国の自治体が、今、一生懸命、作業をしているところでありますが、静岡市は市内の公共施設を接種会場とした集団接種と、市内の医療機関で受診をしていただく個別接種、この二本柱を準備しております。集団接種の会場としては、現時点では葵、駿河、清水の各区役所と、市内に九つある保健福祉センターをはじめ、そのほか市有施設の確保を調整中でございます。個別接種としては、かかりつけのお医者さんで打ちたいという市民のニーズもあろうかと思っておりますので、これは官民連携して静岡、清水の両医師会の皆さんと連携・協力をしていきたい、この調整も進めております。接種のスケジュールについては、国が新しく示した通り、65歳以上の市民の皆さんが4月から接種できるように準備を進めております。ですから、来月中旬以降に高齢者の方から、順次、接種券を発送させていただきます。また、申請方法ですが、お手元に届きました接種券に同封のチラシ案内に従って、専用のコールセンターあるいは専用のサイトから接種の日時や場所をご予約をしていただくという手続きであります。

そして、私たちの問い合わせの受け皿ですね、これが大事だろうと思いますので、このワクチン接種の準備については、保健福祉長寿局の保健衛生医療統括監を筆頭として、職員をここに集めまして、そして、ワクチン接種推進本部を設置して、各種の問い合わせに答えていきたいというふうに思っています。

このワクチン接種は、コロナ収束に向けた大きな一歩になろうかと期待しております。この大きな一歩を静岡市も力強く歩み出せるように努力をしてまいりますので、また、ご協力をお願いしたいというふうに思っています。

◆ S B S

ありがとうございます。この関連で、会場の確保ですとか、医師や看護師の確保というのが全国的にも課題にもなっているかと思いますが、静岡市にとって現状でのワクチンの接種体制についての課題はどのような点が考えられますか。

◆ 市長

もう全国の課題と同じですね。特に70万という大きな人口を抱えた基礎自治体ですのでね、そここのところをきちっと市民の安心に込められるかということ、今、一生懸命、体制整備しております。もし、保健福祉長寿局長、私の発言に補足することがあったら発言をお願いします、統括監。

◆ 保健衛生医療統括監

保健衛生医療統括監の杉山でございます。準備については遅滞なく進めるよう、今、努力しているところです。会場の選定についてはですね、今、市長がおっしゃった通り市有施設を中心に調整を進めているところです。あと、今、ご指摘があったように、従事者の確保ですね、お医者さんと看護師さんの確保については、それぞれの病院、あるいは医師会のほうと調整させていただき、協力を仰ぎながら進めていきたいというところでございますし、その他、薬剤師会さんのほうに、ご協力をお願いできたらなというところで、今、お話しをさせていただいているところですので、頑張って準備を進めていきたいというふうに思っています。

◆ S B S

最後に、市長に一言、先ほどのご説明の最後にもあったかと思うのですが、今回の、このワクチン接種に、市長としてどのように、市全体は臨んでいきたいか、教えていただけますか。

◆ 市長

市民の皆さんの気持ちに寄り添う、そんな取り組みにしていきたいと思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

静岡市清水区の高橋雨水ポンプ場、市長の施政方針演説で触れていた整備を進めている事業ですけれども、着工前に消防から危険物を取り扱う許可が下りていない問題が発覚しまして、市長として、率直にこういう許可が下りてない状態で着工してしまった原因をどう捉えていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

これは本当に市民の皆さんに申し訳ないなというふうに思っております。局間連携が必ずしも十分ではなかったという意味でおわびを申し上げたいと思います。公共公益施設でもあり、できるだけ早く消防法に適合した施設に完成させていくように、指示をしたところであります。

◆中日新聞

適合させるよう完成させるということは、改築方針ということなんですよ。原因のほうについて、調査は取りあえず内部で進めるんですか、それとも外部も招いて。

◆市長

ここは補足をしてください。ちょっと待ってくださいね。今、前に行きますんで。

◆上下水道局下水道部長

今、まず公共公益施設ですので、一刻も早く整備を完成させるよう進めているところがあります。内部で今、原因究明の調査委員会を立ち上げ調査を進めていますけれども、この後必要とあれば第三者委員会等の立ち上げも必要かと考えております。以上です。

◆中日新聞

まだあります。内部調査と言いますけれども、消防から指摘があったのは、私どもの取材では、もう一年弱前、去年の3月頃には催促されていて、そこで、工事を止めて協議することはできたと思うんですけれども、なぜここまで、正直言って、いまさら内部調査が始まるような段階になってしまったのでしょうか。

◆上下水道局下水道部長

我々は、一番最初、土木工事から建築、設備と、いくつかの工事に分かれてあります。一番最初に現場着工するときには、計画通知といって、土木に、全ての工事の着手前に、その計画通知を出して、土木が完成する頃に建築等設備工事を発注しております。危険物の許可申請につきましては、設備を発注したときにある程度、通常の土木と違って、メーカーが決まって、細かい仕様、これ、施工図と言いますけれど、それが決まってから最終的な許可申請書というのを提出し、許可が下りるという認識でおったものですから、今回このような遅れが生じてしまったということになります。

◆中日新聞

それ以前に、そもそも危険物を格納する建物をつくる段階から消防の許可が必要なはずなんですけれども、そこの不作為というのは。

◆上下水道局下水道部長

そこのところが、先ほど言った計画通知の段階で、消防さんと何度か協議させていただき進めてきまして、その後の建築等設備を発注する前に、そこら辺の協議が遅れたのかなと、今は感じております。

◆中日新聞

協議が遅れたというより、消防からは出してくださいね、と言われていたはずなんで、通用しないと思うんですけれども。

◆上下水道局下水道部長

そこら辺については、もうちょっと原因究明を、これから進めていきたいと考えております。

◆中日新聞

その原因究明、調査はいつごろまでに終える予定なんですか。

◆上下水道局下水道部長

内部調査については、できたら本年度末中には、ある程度、原因は究明したいと考えております。

◆中日新聞

原因究明と改築に向けては、同時並行で進めていくんですか。

◆上下水道局下水道部長

はい、そうです。

◆中日新聞

最後に、住民の方々、この事業って台風だっりの浸水対策として、それこそ台風シーズンに間に合わせるよう、今年の夏完成という予定だったのが、台風シーズンに間に合わなくなってしまいうけですけども、住民の方々には、どう説明されていくんでしょうか。

◆市長

これはほんとに申し訳ないことだというふうに思っています。

◆中日新聞

聞いた限り、ちょうどコロナで集会とか、説明会やりづらいというのもあって、去年、全然、説明会が開かれてなかったようなんですけども、このことが分かった時点で住民に説明することはできなかったんでしょうか、遅れるという段階で。

◆上下水道局下水道部長

そこは大変申し訳なく思っております。

◆中日新聞

今後、説明会を開く予定というのは。

◆上下水道局下水道部長

どこかの時点で近隣住民の方には、しっかりと説明したいと考えております。

◆中日新聞

市長、今度の演説では触れるんでしょうか。

◆市長

事業は、こういうことがあってしまったけれども進めていくよ、ということを言及するかもしれません。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。時間も来ましたので、もしあれば最後の1問ということに
お願いをいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、以上で、
本日の会見を終了させていただきます。次回は2月18日の木曜日の予定です。
本日はありがとうございました。